

2014 年 3 月 10 日（月） 仙台市 中野栄小学校・中野小学校訪問 「子どもたちに笑顔をも！ 復興支援プロジェクト」

このプロジェクトは、東急グループと三國清三シェフが中心となり、震災のあった 2011 年の 6 月から行われていたもの。小山が参加するのは初めてとなる。今までは特別外に公表することをしていなかった。東急文化村の升田社長は、被災地への支援が集中していることや、被災地に訪れる支援にも様々な種類があることを考え、自分たちができるのは、純粋な支援、という思いの下、宣伝等は控えてきた。

2014 年 3 月に行われたこのプロジェクトは今回で第 7 回目となる。震災から 3 年が経とうとしているが、一時はいたるところで行われていた被災地への支援も少しずつまばらになりだした。そんな今、これからは活動内容を他に発信していく事も、一つの被災地の復興へ繋がる道なのかもしれない。心持を新たにした東急グループと、思いを同じくした小山も、冬の被災地を訪れた。



中野小学校・中野栄小学校

中野小学校は津波により校舎が使えなくなってしまったので、現在は中野栄小学校で授業を受けている。写真は震災当時の中野小学校。海から 200 メートルしか離れていない校舎は津波によって多大な被害を受けた。幸いに児童は全員無事だったが、家族を亡くした生徒も多い。2 年後には廃校が決まっているが、「何とか中野小学校から卒業したい」、と今でも 9 割の生徒が仮設住宅からスクールバスで通っている。三塚校長は「支援のおかげで子供達の学校生活は普段通りになってきましたが、震災の前と後では芸術に対する意識が明らかに変化しました。支援のために色々な方が来てくれます。このプロジェクトの話が聞いた時も“夢のようだ”と思いました。」と語る。



<2014 年 3 月 10 日 子供たちのスケジュール>

9:40～10:25	体育の授業 (中野小学校 5・6 年生対象)	講師：大山加奈氏
11:00～11:30	食育の授業	講師：三國清三氏
11:30～12:20	ランチタイム	
12:40～13:10	ピアノ演奏鑑賞	講師：小山実稚恵
その後	感謝の会 ・中野小学校 6 年生による和太鼓演奏 ・合唱 (Believe)	伴奏：小山実稚恵



<体育の授業>

元オリンピック選手・バレーボール日本代表の大山加奈選手による体育の授業。当日は雪もちらつく寒さのために、育英学園高等学校の体育館で行われた。大山選手直伝の体操で体をほぐした子供たちは、午前中、元オリンピック選手直々の指導の下で、バレーを楽しんだ。大山選手は自身の公式ブログにて

「こうして喜んでもらえるのであれば3年経とうが、何年経とうが関係なく足を運びます！！
本当にたいしたことはできませんが、少しでも楽しい時間をもってもらえたり、楽しい思い出を作るお手伝いができるように頑張ります！！」
と思いを語っている。



＜食育の授業＞

子供たちに「お話を聞いてから、ご飯食べるのと、ご飯食べてからお話し聞くのはどちらがいい？」と聞くと、子供たちから「お話を聞いてからご飯！」との声。三國シェフも驚きの子供たちの自制心の高さがうかがえる。三國シェフは、食育について、

「良いものを食べると良い人に、悪いものを食べると悪い人になります。」とわかりやすく噛み砕いた言葉で説明した後、大切な味覚の種類、甘い、しょっぱい、苦い、すっぱい、うまい、について例をあげながらレクチャー。「これらの味覚を感知する感覚は、六年生まででどんどん増えてゆき、そこからはどんどん減少していきます。六年生までに五つの味を全て感じておくと、五感が敏感になります。五感が敏感、という事は、様々な事に対して感度が良くなる、という事です。感度が良いと、大山さんのようにオリンピックに出て活躍する一流選手になったり、小山さんのようにピアノで活躍したりすることができるようになるのです。」と独特の語り口で語った。そして、いよいよ給食、という時、「今回の給食は、すぐ食べちゃだめだよ！匂いを嗅いでみたり、色を見てみたり、色々な感覚を使って感じてから食べて下さいね。」と締めくくった。

(こんなにたくさんのシェフによる給食の、その様子は・・・)

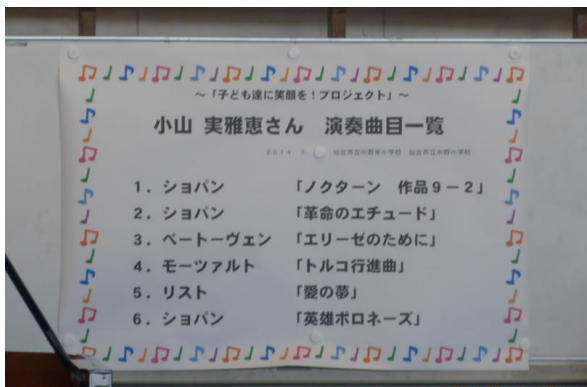




メニュー

- ・ 生野菜のサラダ
(マヨネーズオレンジソース)
- ・ コーンスープ
- ・ ダブルソースの
ハンバーグカレー
- ・ プリン
- ・ お水





<音楽の授業>

給食の後は音楽の授業。

演奏する曲について、作曲された背景や、作曲家の事について話しを交えながら演奏する小山。

1 曲目は学校側からリクエストもあった、浅田真央選手のショートプログラムにも使われたショパンのノクターン。2 曲目の「革命のエチュード」では、ショパンの故郷を思う気持ち、みんなが故郷を大事に思う気持ち、小山自身の東北を大切に思う気持ち、などショパンの思いと自分の思いをリンクさせるレクチャーの後、演奏が始まった。左指の早さに、男の子達が真似して指を動かし始める。

続いて演奏されたベートーヴェンの「エリーゼのために」とモーツァルトの「トルコ行進曲」は子供たちも知っている曲。子供たちは知っている曲が流れるととても嬉しそうに、体でリズムを取って聴いていた。

最後はショパンの「英雄ポロネーズ」。この曲は小山が被災地で、いつも演奏する曲。つらい事があっても、進んで行く力になるように、そんな思いがこめられた演奏に子供たちからも職員やシェフたちからも拍手が寄せられた。

手拍子に応えたアンコールは、ショパンの「小犬のワルツ」。

小犬が尻尾を追いかける様子を音楽で描写したチャーミングな曲で幕を閉じた。

<子供たちからの敬礼！>



<和太鼓演奏>

和太鼓は、中野小学校の伝統。異動のある教員からではなく、生徒から生徒へ教え伝えることで、20 年以上もの長い歴史が繋がれてきた。和太鼓は、津波により流されてしまったが、自衛隊が見つけてくれた。それを修復し、現在も使っている。中野小学校の六年生による最後の演奏。9 日後には卒業。

<合唱>

小山の伴奏による合唱。

「Believe」は卒業式の定番となった曲。子供たちだけでなく、今回参加したシェフも合唱に参加した。参加者の心が一つになる合唱に、校長は「こんなに綺麗な合唱は初めてでした。」と何度も語っていた。



<花束贈呈・おわりに>

生徒たちからの花束を受け取る。校長先生の言葉をお借りすれば、「夢のような」一日だった。子供たちが今日の事について、その価値について、本当に知るのはずっと先になるかも知れない。すぐには実らない物でも、いつか必ず形になると信じてそれぞれが信じることを。震災から三年目になる今年、継続と発信をテーマに、再び歩み出す。